

看護部が掲げている目標に、「目標管理を着実に実行し、個々のキャリア形成を支援する。」  
「現行の看護を検証し、合理性（理にかなっている）のある看護実践に繋げる。」があります。それらの詳細の中に「各人が自らのラダーレベルを知っていて目指すレベルと課題を言葉にできる。」「日々の看護ケアの中での疑問や気づきを研究的視点で捉え検証し、看護実践や業務改善に活かすことができる。」と記述しています。

2018年2月にある研究協力の依頼があり、文面には以下のような記載がありました。「変化する臨床現場では、状況に合わせて対応できる臨床実践能力が求められています。状況に合わせて対応できる基盤能力は看護師に限らず全ての社会人に必要な能力（社会人基礎力）となっています。社会的役割を踏まえ自ら課題を見つけ、課題解決に繋ぐ力をつけ、それを現実に合わせて自己成長させていくことが重要と言えます。」看護部の目標にオーバーラップした内容に心が動かされました。

「看護プロコンピテンシー」看護師の基盤能力、その能力を確認する評価指標の開発、基盤能力指標は自己成長を客観的に評価できることから効果的な自己成長に向けて活用できるという言葉に、当時、IからIVまでラダー認定を受けている皆さんに評価テストを行ってもらいました。記憶にあると思います。当院看護部は279部の配布で181部（約65%）の回収でしたが、この取りまとめの結果報告を2019年10月に受けました。全国41病院1,741名の看護師のうち、当院は1割を占めていました。

看護師に必要な能力として、「自分から課題を見つけていく能力」「協働する能力」などが挙げられますが、当院看護部の特徴としては「対課題基礎力」に分類される計画立案力、実践力に比べ「課題発見力」が低値であることでした。課題発見力は、「情報を広く収集し、様々な角度から問題を分析して、物事の本質的な課題を見極める」といった内容が要素になっています。引き続き、12月には個々の能力を具体的に確認することで自己成長に活用できるように記名での調査をお願いしたところです。自己の強みと課題を把握し、今後自分が伸ばすべき能力とそのため行動を促進できると期待しています。

冒頭でも述べましたが、2018年度の看護研究は随分と臨床現場での実際に即した内容が多く見られたと思っています。災害対策に関するもの、患者指導やケアを中心とした患者・家族支援に関するもの、それも他職種連携に注視したものが増えました。その年の医療や看護を取り巻く背景が窺えるのも研究発表の楽しみです。臨床研究委員会の発案で今回から優秀な発表を表彰する企画も加わりました。評価される、承認されるということが意欲の向上に繋がることは否めません。

本号から「固定チームナーシング取り組み報告」が収録されています。これは各所属が所属目標を掲げ、年間計画を立案、実施、評価した結果をまとめたものです。2017年度から年度末に看護師長が報告会として発表していましたが、奈良医大・看護部の軌跡として残しておこうという趣旨からです。研究発表と併せて読んでみるとそれぞれの所属の特徴や傾向も見えてくるかもしれません。

「継承と成長」、既存の型に捉われず本質を見極めながら挑戦し続ける看護部でありたいと思います。